

平成 29 年度

事業者番号 0052 事業所番号 005201

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
C	

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	志木地区衛生組合 富士見環境センター	
事業所所在地	市区町村	富士見市
	字・地番	大字勝瀬480番地
産業分類名(中分類)	廃棄物処理業	
分類番号(中分類)	88	
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	主な業務: 一般廃棄物の中間処理 敷地面積: 20,841.75m ² 建築延面積: 14,879.76m ² ごみ焼却炉: 180t / 24H (90t × 2基)

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第2計画期間の削減目標

計画期間	27	年度	~	31	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量3,739t-CO ₂ に対して、年平均13%、486t-CO ₂ を削減目標とする。			
	その他ガス	基準排出量16,900t-CO ₂ に対して、年平均約3%、510t-CO ₂ を削減目標とする。			
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)	16,264	t-CO ₂	事業所区分 第2区分	
	削減目標量 (計画期間合計)	2,431	t-CO ₂		

(2) 第3計画期間の削減目標

計画期間		年度	~		年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)				
	その他ガス				

3 - 1 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
	1,815	1,849			

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算(t-CO₂)

		計画期間				
		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂		3,603	3,670			
その他 ガス	非エネルギー起源CO ₂	13,944	16,656			
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン					
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
	温室効果ガスの合計		17,547	20,326		

(3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況(エネルギー起源CO₂)

CO₂換算(t-CO₂/指標)

				計画期間				
				27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位				0.1308	0.1242			
活動規模の指標								
	○	可燃ごみの 焼却量	トン/年	27,540	29,550			

3 - 2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	3,739	t-CO ₂ /年
基準排出量検証	基準年度検証実施済	

(2) 基準排出量の変更

変更年度		変更量	
変更年度		変更量	
変更年度		変更量	

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

27	年度から	31	年度まで
----	------	----	------

(5) 年度ごとの状況

		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	3,739	3,739	3,739	3,739	3,739	18,695	
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%		
	排出上限量 (C = A-D)							16,264
	排出削減目標量 (D = (A × B))							2,431
実績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	3,603	3,670				7,273	
	排出削減量 (F = A - E)	136	69				205	
特例	高効率設備の 算定量()							

算定を希望する場合のみ記入する。別途、算定資料(任意様式)を添付すること。

(6) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

・設備の増減はないが、平成27年度に比べて富士見環境センターへのごみの搬入量が増加したため、排出量が増加した。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量 (t) (一年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	平成31年度着工予定の焼却施設基幹改良工事時に各送風機類をインバータ方式への変更を検討する。	H31年度	
2	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	既存プラントの整備等の更新時期には、モーター、空調機器、照明機器等を省エネ型を採用する。	H27年度	
3	370700	電動力応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	平成31年度着工予定の焼却施設基幹改良工事時に更新する機器に高効率電動機の採用や低空気比運転を可能とする自動燃焼制御装置の導入を検討する。	H31年度	
4	340500	発電専用設備、コージェネレーション設備	34_熱の動力等への変換の合理化に関する措置	平成31年度着工予定の焼却施設基幹改良工事時に太陽光発電等のクリーンエネルギーや熱等のエネルギー再生設備の追加を検討する。	H31年度	
5	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	ごみのかく拌作業を重視し、効率のよい運転に努める。	H27年度	
6	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	中央制御盤(DCS)による燃焼制御 <第2計画期間も継続>	H26以前	
7	330200	空気調和設備、換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	中央操作室のボイラー監視画面により制御 <第2計画期間も継続>	H26以前	
8	320300	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_放射・伝熱等による熱の損失の防止に関する措置	日常の機器点検の実施 <第2計画期間も継続>	H26以前	
9	320400	熱交換器等	32_廃熱の回収利用に関する措置	定期点検、オーバーホールの実施 <第2計画期間も継続>	H26以前	
10	320200	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	空調機器保守点検の実施 <第2計画期間も継続>	H26以前	
11	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	日常の機器点検の実施 <第2計画期間も継続>	H26以前	
12	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	日常の機器点検の実施 <第2計画期間も継続>	H26以前	
13	490200	その他	49_その他の削減対策	搬入されたごみの中から再生可能な物を回収し、破砕処理量や焼却量の削減を行う。 <第2計画期間も継続>	H26以前	
14	490200	その他	49_その他の削減対策	事業系可燃ごみ収集車両のごみ質調査の実施回数を増やし、再資源可能な廃棄物が混入していないか検査し、不適切な場合には改善計画の提出や受入停止とする。	H27年度	
15	490200	その他	49_その他の削減対策	その他ガス削減の実施。削減達成が困難な場合、その他ガスの削減量の充当や排出量取引を活用し目標達成に努めます。	H27年度	

入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

日本工業規格A列4番

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text entry, occupying most of the page below the header and section titles.